

続 おいしけ野菜をつくりたり

穂高インゲン

やや疎植にしてつるの伸長を促



インゲンマメは江戸時代前期に隱元禪師（黄檗宗）により中国から伝えられたとされています。しかし栽培が普及したのは明治になってから。穂高インゲンは穂高町の篤農家が昭和初期に米国からいろいろな野菜の種子を導入・試作をする中でこの品種を見いだしたものと言われています。その名の通り安曇野の穂高を起源として普及した、つるあり平莢の品種です。

この品種の特徴は莢の肉質のきめが上品であること。このため、かんだ時の食感に優れていて食味が良い。取り

質問、意見、感想などお寄せください。長野日報伊

運動場周辺で3回の植栽会を予定。初日のこの日は、町営舟久保住宅の敷地内に植わるコマツナギ約100株を同運動場東側の土手に移植した。同運動場は28年に県内で催予定の国民スポーツ大会のホッケー会場に選ばれ、グラウンドの拡張が計画されている。同運動場東側のミヤマジ生息地が拡張工事予定地に該当するため、次回の6月9日の作業で移植を行う。時間は午前10時～11時30分。申し込み不要で、参加自由。同会事務局の出戸秀典さんによると、同運動場東側の生

息地では18日に55匹の個体を確認したという。「今年は相当数のミヤマジミが舞いそう。植栽作業もたくさん的人に参加してもらいたい」と話していた。（有賀政宗）

県の職場いきいきアドバンスカンパニー登録された、船外機の製造などを手掛けるトーハツマリーン（駒ヶ根市）は武藏工大二時代の2004年以来20年ぶりの優勝を飾った。都市大塩尻は6月1、2、4日に富山市で開かれる北信越大会に出場する。

都市大塩尻は計6安打ながら8四死球や敵失に乗じて着実に得点。7盗塁と機動力も生かしてリードを広げ、1-1に16日、認証書が交付された。県南信労政事務所の木下弘志所長が同社を訪れ、小海孝幸社長に手渡した。

同社は、ライフスタイルやニーズに合わせた働き方ができる企業「ワーカーライフバランス」と、若者や就職氷河期世代の育成に積極的に取り組む企業「ネクストジョナリション」の2コースの認証を受けた。男性社員の育児休業の取得実績や研修制度、資格取得補助制度などが評価された。認証は5月1日付。

長は「今いる従業員が働きやす

い」と話した。（有賀政宗）

スカンパンニーの認証書を受け取るトーハツマリーンの小海社長（左）



職場いきいきアドバンスカンパニーの認証書を受け取るトーハツマリーンの小海社長（左）

（有賀政宗）

（有賀政宗）